市民インタビュー　第６０回

この人に会いたくて

千提寺で三島独活（うど）作りを引き継いだ
中井大介（なかい だいすけ）さん・優紀（ゆうき）さんご夫妻

ご主人の生まれ故郷である千提寺にＵターンし、後継者がいなくなる「なにわの伝統野菜」三島独活の栽培を引き継ぎ、北部地域の活性化に取り組んでいる若い夫婦がいます。

三島独活作り、地域の活性化への思いや取り組みなどを聞かせていただきました。

大介さん、後藤さん、優紀さん

■Ｕターンされたきっかけは

父親が早くに亡くなったことがきっかけです。妻が「帰ったほうがいいのでは」と言ってくれました。妻は山手台出身で距離的には近いので、そんなに違いはないと思っていたようですが、大岩のトンネルを抜けると別世界だったようです。

こちらに帰り、改めて後継ぎというものの大切さがわかりました。農村ですので、家を継ぐということは単にそこに住むということだけではなく、土地を守っていかなければならないですし、ご近所の人達とともに、地域の行事も次の世代につないでいかなければなりません。

■三島独活栽培を引き継がれたのは

千提寺に新名神高速道路が通ることになり千提寺のよいところをアピールしていこうと地域の人達と「まちづくり委員会」で活動していました。そこで、三島独活の生産をされている後藤さんがそろそろやめるということを聞きました。千提寺の誇りである三島独活がなくなってはいけないと思い、私達にできるか不安でしたが引き継がせてもらいました。後藤さんが長年にわたって培われた熟練の技を教えてもらっています。目標は、伝統農法の継承です。後藤さんから受けたバトンをしっかり守り、次の世代に渡せるように挑戦し続けたいと思います。

■地域の活性化の具体的な取り組みは

北部地域は茨木市の2分の1の面積を占めますが、人口は100分の1ほどの約2，800人で里山と農地を支えています。子育て世代の流出が多く、子どもも減少し続けています。進む高齢化からも15年後にこの地域がこのままあり続けるか、というところまできています。

そこで、山三地域（見山・清溪・石河）の住人、出身者、事業者で「茨木ほくちの会」を作りました。老若男女、集落を越えて気軽に意見を言い合い、「みんな笑っていけるとこ」を目標に、地域の魅力を伝える活動をしています。若い人たちにこの地に定住してもらい、自然と地域のつながりを守っていきたいと考えています。

■三島独活栽培を始めて感じたことは

後藤さんが守ってこられた古き良きものを守っていくことが私たちの使命だと思います。うどは「独活」と書き、ひとりで活きるとも読めますが、キャッチコピーは「独りじゃ、活きられへん」です。地域の人をはじめ多くの人に支えられないと三島独活はできないということを実感しています。

二人を孫のように慈愛のまなざしで見つめる後藤さん。未来への継承をしっかり見据えた中井夫妻。

おふたりの二人三脚は始まったばかりですが、不安をものともしないポジティブな姿勢と地域のサポートによって、この冬もおいしい三島独活が収穫されることでしょう。

「三島独活」とは品種のことではなく、この地域の伝統農法で栽培されてきた「促成栽培軟白うど」のこと。多年草のうどは、開花後枯れて冬眠状態に入り、株に栄養が蓄えられる。この栄養の詰まった株を「うど小屋」の中に植え付け、藁と干し草を積み重ねる。水を撒かれた藁と干し草が発酵することによって発熱し、温度が上昇。春が到来したと感じたうどは一気に芽吹く。

三島独活はアクがほとんどなく、生で食べると“春の梨”のような味わいがする。インターネットや電話で予約販売を受け付けている。

問合せは「千提寺ｆａｒｍ」090-6900-6968 まで。

グループ紹介

「泉女性学級（いずみ）」
～　美しく年を重ねるために　～

文集「いずみ」

1982年（昭和57年）中央婦人学級のメンバーが中心になり、新しく「泉女性学級」が誕生しました。今年2016年（平成28年）で34年になります。年齢構成も当初は30代から60代でしたが、現在では60代から70代がほとんどで、年齢と共に学習内容も変化してきました。

2012年（平成24年）には30周年の記念学習会を行いました。ローズWAMの当時の所長、樫本佳子さんを講師にお迎えして、映像を見ながら、和気あいあいと本音で話せる楽しい学習会になりました。毎年3月には年間学習計画や学級生の作文をまとめて、文集「いずみ」を発行しています。表紙のデザインは学級生が担当し、印刷は市の施設を利用して手作りしています。文集を手にしたときは大いなる喜びを感じます。

「泉女性学級」が理念としているのは「自己の創造と社会性を求めて ～ 美しく年を重ねるために ～」です。毎年10回の学習計画は学級生全員で検討し、当番を決めて運営しています。女性問題、環境問題、高齢者問題、散策、美術鑑賞、市の施設見学など、幅広く学習しています。

ここ数年、1月の学習会では「百人一首カルタ会」をしています。学級生の一人が読み手になり、2組に分かれて源平合戦をし、お正月気分で和やかな楽しい時間をすごしました。10月の学習会は京都文化博物館にて「黄金のファラオと大ピラミッド展」を鑑賞しました。国立カイロ博物館所蔵の有名な「ツタンカーメン王の黄金のマスク」や「彩色木棺」などを見て、古代エジプトの壮大なドラマに感動しました。

学習会の初めには必ず「茨木市歌」を斉唱します。朝から大きな声で歌うのは気持ちのいいものです。月1回の学習会に参加することによりいろいろなことも勉強できて、心が和み、安らぎ、本当に楽しく心地の良い学級です。

興味を持っていただけたら気軽にお問い合わせください。

問合せ先　近藤 允子　622-8172

編集後記

●交通事故の約 1/3 が自転車によるもので、死亡事故に至る場合も少なくありません。「自転車のルールとマナー」を身に付けて正しい乗り方で身の安全を守りたいものです。（山田　俊一）

●自転車歴 60年というのにマナーやルールには無知でした。今回の特集ではいっぱい教えられて目から鱗。歩行者と同じ気分でいたのですが、道交法上は軽自動車並の扱いでした。（山羽　昭完）

●「椿の本陣」17代当主、梶さんにお話を伺いました。94歳とは思えない流暢な説明に、300年前の郡山宿の様子を想像してしまいました。（荒野　則子）

●郡山宿本陣の御当主、梶さんのかくしゃくとした姿勢で話される解説を拝聴し、本陣を何代にもわたり維持管理し現代に引き続いてこられた事に感服しました。（樋上　雅俊）

●自分にあった装いは何かを考えるとき、他人の装いへの考え方や他人からの視線を想像してしか、自分の装いへの価値を見いだせないのだと思い知らされました。（八木　寿則）

●「日本語読み書き学級」を見学して、現実に困っている外国人や障害者の人々のサポートに尽力されている方に、頭が下がる思いがしました。（近藤　久孝）

●日本語読み書き学級では異文化交流会（各国の料理作り）を実施して、受講生相互と講師の交流を図っている。今後も、より一層の充実を望みたい。（小山　邦夫）

●現在も復興支援を続けている高校生達、活動体験を通して小さな事にもありがとうと思う気持ちを学んだそうです。月日が経つと忘れがちな私達も募金などできる事をしようと思いました。（田中　浩子）

●東日本大震災支援のボランティア活動について、高校生にインタビューしました。様々な活動により培われた自信に支えられた受け答えに、これからの社会での活躍に期待が膨らみました。（高原　望）

●千提寺に戻り「三島独活」を引き継いだ中井夫妻が、この地域で過ごす魅力を知ってもらい、これからのかっこいい農業を共に目指していこうと奮闘される姿に感動しました。（梅澤　智恵子）